

大田区自立支援協議会 令和2年度 第4回地域生活部会議事録

文責：事務局

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 令和2年度 第4回地域生活部会			
(2) 開催日時	令和2年10月20日(火) 10:00~12:00			
(3) 開催場所	障がい者総合サポートセンター 5階 多目的室			
(4) 出席した委員、事務局	宮崎 渉	鶴田 雅英	大場 貴弘	佐久間 香織
	宮島 祐紀子	山根 聖子	恵良 幸樹	大岩 香代子
	小野 英次郎	栈敷 洋子	清野 弘子	中野 真弓
	平井 有希子	相澤 あゆみ		
	区事務局：福島、秋山、西澤、大本、親跡、藤崎			
(5) 内容・要旨	<p>1 議題</p> <p>(1) 大田区自立支援協議会 第3回運営会議について</p> <p>ア 運営会議の内容</p> <p>新型コロナウイルスの今後の対応については、各団体の中で完結していく方が良いと伝えた。今後この会議の中でどう続けていくのか考えていきたい。</p> <p>○ワーキンググループについて</p> <p>相談支援部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年に引き続き、高齢福祉と障害福祉の連係を課題とする。 ・介護支援専門員と相談支援専門員の役割と実務の違いの比較を考えていく。 <p>防災あんしん部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護（部会としての取り組みをどうするか考える。） ・調査研究（福祉避難所へのアンケート、状態別のニーズの調査） ・自助共助ツール（ヘルプカードの見直し）の3つを進めていく <p>○10月27日の本会開催では、3部会のそれぞれのワーキンググループからの報告が行われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者の意見を吸いあげる場にしようとする質疑の時間を設け皆さんの意見が出せる場にしていく。時間はかかるかもしれないが、これを定着できるようにしていきたい。 ・第6次施策推進プランに向けてどうするかが専門部会で話された。そこから地域生活部会としての本会資料を宮崎部会長、鶴田副部会長で作成し提出している <p>(2) WITH新型コロナウイルスにおける新しい生活様式に向けた地域課題について</p> <p>ア 課題等の整理の仕方等について</p> <p>各委員から共通となるワードからの整理をする。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「情報」や「仕組みづくり」などのキーワードで考えてはどうか？</p> <p>増井委員：情報や仕組み作りは大事とは思いますがコスト面をどう捉えるのか？感染拡大に配慮しつつ、1日を過ごす利用者を考えてどう人が動いていくのかスケジュール管理が必要になるそこには手当て（コスト）が必要となるのではないかと</p> <p>鶴田委員：情報伝達には難があったと思っている。日中支援の事業所に通所できない家庭へ電話対応でも通所と見なすというこ</p>			

とが2月20日に区のホームページに掲載された。しかし3月になってもそれを知らない事業者があったことが電話でのやり取りで分かった。感染者が発生した時どのようなタイムラインで動いたかの情報があればよい。

棧敷委員：紙資料はたくさん来るが読み切れない。ヘルパーが濃厚接触者になったが、利用者が陽性と判るまで支援をしていたことがあった。事業所として振り返りも行なったが、このような時の対応を区の指針として提案してもらえたら良かった。

大岩委員：情報が提供されると安心、見通しが立つ。通園している時の方が子供は安定しているので通常に利用できるように動いた。他の保育園等の情報が入ると良い。区として基準や見通しもあれば良い。

佐久間委員：2月、3月は（コロナの）様子が分からず、子供を守るためにできることは何だろうと考えた。外に出さないようにしていた。利用している施設の情報がなくて不安であった。

相澤委員：息子は寮で生活していたが平均体温37.2度くらいある。寮では37度以上になると隔離されてしまう。隔離されてしまうと会社にも行けなくなる。続けて2回そのような状態があり、会社を辞めなくてはいけない状況になったので寮を出ざるを得なくなり、1人暮らしを始めたがたくさん問題があり大変。また、事業所で利用者に陽性反応が出た場合休まなくてはいけなくなると思う。そうすると事業所の死活問題にもなりかねない

棧敷委員：濃厚接触者としてPCR検査を受ける人が出た事業所などの対応の事例を伝えてもらえると有難い。マスク等の利用の状況はどうなっていたのかなど。

平井委員：親として、区外の事業所の取り組みだが、陽性者が出たらどのような流れで対応するという事がリスト化され提示された。利用者を4段階に分けて例えばマスクができる、ソーシャルディスタンスがとれないなど、その子の段階に応じた支援利用時間などがリスト化された。自分の子どもが利用できる範囲がわかりやすく良かったと思う。

中野委員：情報がどの段階でどう伝わっているのか、伝わっていないのかアンケートから整理をしたらよいのではないかと。川崎の病院のクラスターの例、救急搬送された3名が3つの病棟に分かれ、そこから広がったことをNHKで取り上げられた。その病院はどこから感染して、どう広がって、どう止まったかを明確に公表することで信頼を得ることができた。不明瞭さが不安だった。多種多様な機能・人がいる協議会なのでどういう情報がどう伝達されたか、どのように仕組みに反映され、ルールにつながっていったかの事例を拾い上げればよいのではないかと。また、ここにいるメンバーのネットワークの取り組みを聞き取れると良い。

大場委員：グループホームでの取り組みは、日々の手洗いうがいの励行、居室での食事と基本的なことの実施。厚労省のアプリ「ココア」で濃厚接触者となり居室待機になり、陰性の結果が出て解除という事例があった。自宅療養は難しいのでこういった場合入院できる病院はあるかなどの情報が欲しかった。

宮島委員：学校は都教委から運営ガイドラインが出ていてそれに沿っての学校運営となっている。学校内での感染は今のところ出ていないが、ガイドラインに載っていない諸々のことに配慮が必要。支援会議を行う時、密になってしまうことからZoomなどで参加してもらったり、10人を超えない支援会議を開催している。情報の伝達として区立学校とのやり取りが難しい。兄弟が感染したとしても他の兄弟は登校してはいけないという事はない。大田区は感染者が出た学校名を出していないが特殊な役割を持つ職員には情報があつたほうがよい。

清野委員：(放デイなど) 電話対応が多かったが、親が出るよりも本人に聞き取りしてほしい。これで通所扱いならば親に加え本人とも話しをすべきと考える。

山根委員：皆さんが関わっているネットワークで事例の共有など対応について情報交換できる体制ができているのかお聞きしたい。協議会の専門部会は現場の人達の集まりで、現状について話し合い共有し検討することができる場と思うので。コロナについて専門部会として年度末までに形にできたらよい。相談・仕組み作りで、もし支援員が陽性になった時の対応の仕組みができているかを確認する方法はないか？高齢の方などネット上で伝わる情報が多く、正しい情報を得られない方がいた。

事務局：形にしないといけない。事務局から1つの見方として、A3の集約表から各々の課題が追加資料「WITH新型コロナウイルスにおける新しい生活様式に向けた地域課題のグルーピングの一例」のA～Lまでのどこに当てはまるか考えてもらい、まとめられればと考えている。専門部会として運営会議に持って行けるよう①情報、②仕組み作り、③相談の項目でまとめていきたい。

鶴田委員：「おおむすび」連絡会では、ネットワーク会員の皆様から集めた情報を事務局から流した。

宮崎委員：「大田区児童発達支援地域ネットワーク会議」は、2グループに分けて開催した。各グループのまとめを今月末までに行う。情報の伝達はギリギリで来るので対応は厳しかった。法人として、通達を受けてから利用者に向けた対応の仕方を提示すること中々まとまらず大変であった。

小野委員：グルーピングを考えてみたが難しい。しかし、たたき台として捉え持ち帰って考える。事業所としては(今回のコロナ禍を)災害として捉えタイムラインを軸に考えている。視点によって見方が違うと思うが。

中野委員：コロナ問題をワーキンググループで取り上げるのも難しいか。専門部会としては作業部会を設けてそこで考える作業を行うことが良いのでは。

イ 今後の進め方等について

最終的な取りまとめをどこまでとするかの議論を行った。

事務局：令和2年度でどこまでできるかまとめる必要がある。次年度に向けて課題の取り扱い方と進め方を話し合ってはどうか。

中野委員：前年度、今年度と積み上げてきた実績を踏まえ、次年度にワーキンググループで検討を続けていくべきことをまとめる。

事務局：地域生活部会での「その他の課題」を可能であれば1つ取り上げて検討してはどうか。この資料は課題が埋もれないようにという山田委員の提案を受けてのものである。ただ、時間の制約で無理ならば、地域生活部会に残るので引き続き課題とすることも可能だと考える。

宮崎委員：残っている時間を使ってどうするか、積み残しがあるのは仕方がないが、事例を検討するのはワーキンググループであって、この場合は総合的に高いところから物を見る所だと考えている。これからはコロナの事をどう落とし込んでいくか、就労定着支援の調査分析・日中支援の区内施設の報告をどこで発表するのか。今年度の時間の制約が厳しい中どう入れていくかではないか。2月最後の部会は「その他の課題」からどれを1つ取り上げるのが良いか希望を取る。次年度へ向けての話しだと思う。

中野委員：次年度の課題・申し送り事項を確認する、スケジュールの確認をする。

宮崎委員：2月の最後でその他の課題から何をどのように取り込んだら良いかを話し合ったら良いのではないかと思う。

大岩委員：課題をつなげていく事は了解した。ワーキンググループで話し合った課題が地域生活部会全体で見えていないのではないか。地域生活部会全体でどのように課題とし繋がっていくか、取り上げていくか考える必要がある。

鶴田委員：作業部会で話し合って進めてはどうか。

(2) (1) に基づきA3資料からコンパクト資料へまとめる

3 各連絡会等の情報提供について

大場委員：8月にグループホーム連絡会を開催、コロナ禍での状況報告がメインだった。昨日、金銭管理について5グループに分かれて話し合いを行った。その結果、個々で金銭管理を行うという結論に達した。

4 各WGの進捗状況について

鶴田委員：「区内施設の現状確認」のアンケートを行い、分析しそれ

	<p>ぞれの見解をつくり資料として作成を終了した。</p> <p>中野委員：就労定着のアンケート 100%回収できた。今、分析を行っている。11 月中には報告書にまとめ 12 月の部会で発表を行うようにしたい。</p> <p>宮崎委員：発達支援マップの検証のワーキンググループ（WG）は 10 月と 11 月に事例を聞きマップにしていく作業を行う。</p> <p>5 その他</p> <p>事務局：ワーキンググループメンバーに限らず多くの方に作業部会に参加していただきたい。参加できる方は連絡をお願いしたい。</p> <p>○11 月作業部会 日時：11 月 4 日（火）10 時から 11 時 会場：大田区立障がい者総合サポートセンター 3 階集会室 1 内容：次回地域生活部会の司会及び書記決めや進行確認など</p> <p>○第 4 回地域生活部会 日時：令和 2 年 11 月 17 日（火） 10:00～12:00 場所：障がい者総合サポートセンター 5 階多目的室</p>
--	---